平成29年度第2回幕別町創生総合戦略審議会 議事録

- 1 日 時 平成30年3月26日(月) 18:30~19:35
- 2 場 所 役場庁舎3階3-A B会議室
- 3 出席委員 藤原会長、森委員、土谷委員、山内委員、澤田委員、木島委員、佐々木委員、大槻委員、山本委員、土橋委員、仙北谷委員、宮本委員、堀川委員
(欠席:森岡委員、宮田委員、喜多委員、橋本委員、中村委員、三島委員、村田委員)
- 4 町出席者 山岸部長、山端課長、谷口副主幹、西嶋
- 5 随行者 十勝総合振興局地域政策課 山田主査
- 6 傍聴者 十勝毎日新聞社 松村記者
- 7 会議要旨

① 開 会

新委員の紹介

杉野委員⇒土橋委員(幕別地区連合)

② 会長挨拶

今回で9回目の開催。

人口に関してはなかなか難しいところ。オリンピックが終わり高木姉妹の活躍により世界中に幕別町が知ってもらえた。町は現在プラス8など各種事業に取り組んでおり、これらの活動を通じて幕別がより知って貰えれば幸い。

今のメンバーでの会議は今日が最後の予定。これからも機会があれば幕別のためにご協力願いたい。

③ 議事概要

下記のとおり

【議事の概要】

(1) 平成29年度幕別町の人口動態について

資料1により西嶋から説明。

(説明概要)

平成29年度の住民基本台帳における人口動態について説明。

- 1 直近10年間の3月末人口であり、左から順に幕別地区、札内地区、忠類地区、町全体の人口、今回から新たに内数として外国人登録者数、町全体の人口の前年比、出生者数と死亡者数、自然増減(出生-死亡の差)、転入者数と転出者数、社会増減(転入-転出の差)、自然増減+社会増減の値を記載している。なお、平成29年度は平成30年2月末の値である。

平成29年度は平成28年度に比べて、町全体では27,148人から114人減の27,034人で0.4%の減少率。

外国人者数が今年は急激に増加、昨年に比べて42人の増。

内訳ではベトナム人が21人増の37人、中国人が14人増の36人とこの2カ国で全体の7割を超える。特にこの1年でベトナム人は男性が16人、中国人は女性が12人と急激に増加している。

出生者数は2月末で137人。平成25年の194人から年々減少している。

死亡者数はここ数年300人前後で推移、結果本年度の自然増減は△123人。

転入・転出に関しては、本年度は転入者数が852人、転出者数が848人。

平成24年に北栄地区の宅地開発終了後、宅地開発が落ち着いたこともあり、ここ数年転入者が1,000人を割り込む状況である。

次に 2 (1) 幕別町人口ビジョンから推計した 2018 推計値との比較について説明。

人口ビジョンでは 1 年毎の推計値を掲載していないが、人口ビジョンにおける 2015 年から 2020 年の推計値を、5 か年均等で按分し参考として推計した値(A)と平成 30 年 2 月末の人口(B)を比較すると、町全体では推計値 27,028 人に対して実人数が 27,034 人と 2 月末であるがほぼ同数、地区別では札幌市街地 0.995、幕別市街地 0.989 と 2 地区の人口が推計を下回っている。

(2)年齢別では 14 歳未満の年少人口が 3,391 人、15～64 歳の生産年齢人口が 15,225 人とそれぞれの推計値 3,484 人、15,608 人よりも減少する一方で、65 歳以上の老年者人口は 8,418 人と推計 7,936 人よりも高く推計よりも高齢化が進んでいる状況。

《2 ページ》

(3)高齢化率は、町トータルで 31.14%、地区別では幕別市街地が 42.04%と最も高くなっている。

3 自然動態について、平成 29 年 4 月～平成 30 年 2 月の住民基本台帳における地区別の出生者数は、幕別市街地で 13 人、札幌市街地で 103 人、忠類市街地で 6 人、幕別札幌農村地区で 14 人、忠類農村地区は 1 人の 137 人、3 月出生見込み 17 人を加えて 154 人とここ数年で最も少ない。これに基づく平成 29 年度期間別合計特殊出生率は 1.25 で、人口ビジョンで提示した 1.55 にはまだ程遠い状況。現在の女性人口から推計して出生率を 1.55 にするためには年間であと 34 人の出生が必要で、人口置換水準である 2.07 を超えるには年間であと約 95 人の出生が必要である。

次に、4(1)社会動態について転入元と転出先を比較すると、十勝管内町村から幕別町に転入しているが、札幌市や東京都のほか平成 29 年度は帯広市、音更町、芽室町に対しても転出超過である。

(2)年齢別では 15～24 歳は転入者よりも転出者が多くなっているが、25～39 歳は転入者は 100 人前後と多く、あわせて同一世帯の 10 歳未満の子どもの転入者が転出者よりも多い状況。資料 1 の説明は以上。

(委員からの質疑)

堀川委員 ルール上外国人と結婚した日本人は住民票上ではどうなるのか。また生まれた子どもは。

西嶋 当人同士は変わらないと思いますが、確認して後日お知らせします。

宮本委員 ベトナム人や中国人は農家のところに入っているのですか。

西嶋 これまでは農家がほとんど。今年に関しては制度改正があったのか定かではないが、菓子製造業やコンクリート業など一般企業に実習生して入っているよう。

宮本委員 介護士はいるのですか。

西嶋 外国人の介護士は町内では聞いていない。

(2) 幕別町まち・ひと・しごと創生総合戦略 平成30年度事業について

資料 2 により西嶋から説明。

(説明概要)

2 月 20 日の新年度予算記者発表の資料から総合戦略に記載の取組内容及び総合戦略に関係数すると思われる事業を抜粋したもの。

新規は 9 事業、新規事業を中心に説明。

3 ページ 地域おこし協力隊の導入

幕別町ではこれまで取り組んでこなかったが、平成 30 年度に町外の人材を誘致し、観光に関する活動や地域の情報発信に関する活動等を通じて、地域活性化を図ることを目的。

3 ページ アスリートと創るオリンピックの町創生事業のうち、スポーツ合宿誘致事業
議事(3)でも説明するが、地方創生推進交付金事業として、スポーツ合宿・大会誘致に取り組むための実行委員会に対する補助、合宿誘致に係る備品整備。

4 ページ 産前・産後サポート事業

社会的支援を必要とする妊産婦を対象に保健師・助産師が相談支援を行い孤立感の軽減を目的とした支援を実施。

7 ページ 訪問販売防止対策事業

町内の全世帯に「訪問販売お断りステッカー」を配布。

8 ページ 認知症カフェ活動運営補助事業

認知症カフェ設置を推進するため運営主体に対して助成。

8 ページ SOS 見守りネットワーク事業

これまで町内の事業者による見守りを実施しているが、車を運転して徘徊するなど行方不明者が広域化しているため、十勝管内全域で情報共有を行い早期発見するためのシステムを構築。

8 ページ 障がい者雇用創出講演会の実施

障がい者の雇用創出を目的に事業者や町民の障がい者に対する意識向上を図るため講演会を実施。

9 ページ アスリートと創るオリンピックの町創生事業のうち、町創生ワークショップ

町民がスポーツ・運動に関わりを持てるよう、スポーツを核にこれからの町づくりを検討するワークショップを開催

9 ページ 近隣センター改修工事

個別新規事業としての記載、幌内近隣センター改修工事と美川近隣センター看板設置工事。

以上、総事業費 11 億 3,270 万 8 千円。

資料 2 の説明は以上。

(委員からの質疑)

仙北谷委員 地域おこし協力隊の導入について非常によい取組み。町外に住んでいる方が町に幕別に住民票を移して地域の活性化に取り組んでもらうわけですが、期間中の頑張りも大事であるが、活動期間後にいかに幕別に住み続けて活動してもらうための協力が最も大事。協力隊の活動が終わった後に会社を起業することもあるが、活動期間後にじゃあ来年から頑張っでは難しい。地域おこし協力隊の活動期間中から地域おこし協力隊の活動期間後に向けた活動がどうしても必要。そうすると活動期間中はもちろん町の仕事をするのも大事であるが、その後に向けた準備として本人に一定程度余裕を持たせた雇用の仕方を組めるかが大事である。また雇い方に関してもどのように業務を組み立てるか、また協力隊になる人についても活動期間後にどのようなプランや目的意識をどれくらい持った人かという面接が大事でしっかり見極めて採用することが必要。

もうひとつは、雇う側の受入方として町の仕事を押しつけるのではなく、地域に根付いて貰うためのサポートをしてあげるか、町として住民として外から来た人の支援の仕方が重要、ぜひ長期的に幕別のために活動できる人を受け入れし、十勝管内でも既に採用している町が沢山あるが、上手くいっている町とうまくいっていない町があり、参考にしてもらえればと思う

山端課長 地域おこし協力隊については、忠類地域の観光振興を行うということで、そちらで地域おこし協力隊の導入をする予定。忠類地域には忠類住民会議があり、その中で地域おこし協力隊を通じて地域の魅力発信をできないかと意見をいただいている。SN

Sによる情報発信はいろいろなところでやっているが、住民の意見を取り入れながら対応していきたい。隊員の面接にしても観光分野であれば人の募集がある程度見込めるのではと周辺町村から聞いている。町の役割、地域の役割、本人の役割も含めて起業にも結びつけていければと考えている。

森委員 予算額から見て1名ですか。

山端委員 これからの募集を考えた時にすぐには人材がなかなか集まらないことを想定して、一応2名の募集をしたいが、期間は秋以降の想定で2名の募集を予定している。

堀川委員 3ページ、都市農村交流におけるスポーツ合宿の目標値はどれくらいでしょうか。

西嶋 次の(3)の議事の中で一括して説明します。

(3) 平成30年度地方創生推進交付金申請事業について

資料3により西嶋から説明。

(説明概要)

現在、国に対して申請している事業について説明

①プラス8プロジェクトin幕別

町内の依田・日新地区をモデルとして事業者が連携し、アジア圏からの旅行者をターゲットに町の資源を観光資源として活用するとともに、観光ガイドやパークゴルフガイドの育成、観光サイトによる情報発信、地域資源を活かした特産品開発を通じて、当該地域を訪れる観光客の滞在時間の8時間延長を目指し、地域経済の向上を図るもの。

②事業期間～⑥数値目標は記載のとおり

⑦検証として、(1)当該地域には道の駅などの観光拠点がないため、現在、宿泊施設スタッフを中心にコンシェルジュの育成を進めているが、観光ガイドブックにない地元の人しか知らない地域情報を伝えることができる人材の育成と、現在はプラス8プロジェクトとして事務局が外国からのエージェント対応も含めて受付しているが、幕別町として今後の総合的な受付先の確保は必須。

(2)ただ観光客が来るだけでは地元のメリットはない。「観光」とは「外貨」を稼ぐこと。お客がお金を落として初めて観光であるが、宿泊施設にも幕別産の商品が何もないのが現状。地域素材を活かした商品開発が必要であり、商品製作までのプロセスを可能な限り地元で行うことで、自分達が価格を調整できる。町外事業者に外注すると価格調整の幅が少なくなり、外貨を稼いでも町外にお金が流れ地元経済に効果が全くない。

(3)観光だけではお客ニーズに対応できない時代である。産業(農業体験)や健康(ヘルスツーリズム)、スポーツ(スポーツツーリズム)等他の分野と連携しながら観光商品を作り出すことで、幕別の新しい観光を提供。それをSNSやメディアによる情報発信で一瞬にして世界に拡散させ誘客促進を図る必要あり。

⑧平成30年度事業内容

上記の課題から、次の取組を実施する予定。

(1)実行委員会の開催

平成31年度以降のインバウンドほか観光取組主体の構築に向けた検討。観光物産協会も先月からプラス8プロジェクトに参加。

(2)観光コンシェルジュの育成

季節ごとの旬の情報共有と情報発信体制の構築として、十勝ライフコンシェルジュと協働した取組の実施。

(3)パークゴルフガイドの育成

幕別町パークゴルフ協会スタッフによる体験指導で、今年は旅行会社から有料で実施。また雪上パークゴルフ場の造成及び管理による冬の遊び体験。

(4)観光情報発信

アジア現地でのプロモーション活動と台湾・香港向けサイトを活用した情報発信。

(5)訪日者受入体制の整備

外国語パンフレットの作成と今年は町民を対象に観光に対する公開セミナーの開催。

(6)町の特徴を活かした商品の研究開発

十勝の農畜産物を活かした商品開発が望ましいが、事業者がオリジナルで取り組みたい意向が強い
ため、マスコットキャラクターのパオくんとクマゲラクんのキャラクターグッズを現在製作中。
来年はニーズ調査と次年度の販売に向けた商品製作。

(次のページ)：グランヴィリオホテルと悠湯館の宿泊数

グランヴィリオホテルは平成25年度以降、年々宿泊数が減少している一方、悠湯館は微増傾向。
季節毎では、夏シーズンは昨年の大雨の影響からは持ち直している。近年は2月の冬季、中華圏
の春節の影響もあり、冬シーズンの宿泊者数が増加している。

(次のページ)：外国人宿泊者数

国別の町内宿泊者数を掲載。本プロジェクトは台湾・香港とタイ・マレーシアを本年度のターゲ
ットとし、台湾・香港に対してはSNSを通じたマクロな情報発信を行い、タイ・マレーシアに対
してはプロモーション等を通じて現地人に直接情報を伝えるミクロ的な情報発信を行った。

本年度は、2月の稼ぎ時に台湾人は平昌に流れたため前年比の約半分しか来なかったがその他の
時期はほぼ同じ。マレーシアは昨年の明野が丘スキー場の開放、タイは9月のジャパンエキスポの
参加により十勝・幕別が現地の方に知られ訪れる客は増加している。これまで町が知られていな
かった国に対してアプローチ出来た効果は大きい。今後は、幕別は一度で充分と思わせるのではな
くリピートしてもらうことと地域に滞在し食事やお土産購入などでお金を落として貰うことが重要。
なお、この表には幕別で遊んで十勝川温泉などに宿泊する客は含まれていない。

②図書館を核とした活字と笑いで活気あるまちづくり事業

町内に図書館が3箇所あるため、図書館を核に、図書館運営をサポートする人材の育成と障
がい者の職場体験、健康寿命を延伸するための健康づくりを行うことで、地域住民の活動の場
を創出することが目的。

②事業期間～⑥数値目標は記載のとおり

⑦検証として、(1)まくべつブックサポーターには、農家や塾講師、ITコンサルタントなど個性
的なメンバーが加わり、新たな発想が生まれている。今後は個が持つ力を活かすことが必要である
とともに、自主性を持った運営を行えるようにすることが必要。

(2)まくべつブックサポーターがフレキシブルな活動を行えるよう自主財源を得ることが必要であ
り、平成30年度は福祉事業所と協働したグッズを製作し販売する予定。

(3)障がい者の就労について、平成29年度は業務内容が明確でなかったため、今後は中札内高等養
護学校など関係者の意見を聞きながらプログラムの組立を行う必要がある。

⑧平成30年度事業内容

上記の課題から、次の取組を実施する予定。

(1)人材育成支援事業として、まくべつブックサポーターの育成と障がい者福祉施設と連携し
たグッズの企画・販売。また、AR(拡張現実)を活用したプラットフォームの構築。

(2)ストレス測定と落語による予防医療モデルの展開として、昨年同様、落語会、講演会の開
催と東部4町図書館交流事業の展開。

(3)アドバイザー会議の開催

③アスリートと創るオリンピックの町創生事業

平成30年度から新たに取り組む事業。

スポーツ合宿や各種大会誘致、オリンピック選手などトップアスリートとの交流を通じたス
ポーツ交流人口の増加、町内の総合型地域スポーツクラブを軸にスポーツ指導者の育成と引退
後のアスリートの雇用環境の確保、町の基盤産業の農畜産物を活用した食事・健康・スポー
ツを組み合わせたプログラムの提供を通じて、新しい人と経済の流れをつくり、スポーツを介し
た雇用の場の創出・拡大によって活力ある町の維持を目指すもの。

②事業背景は、(1)現在町には現役オリンピック選手が5人、ほかスポーツを職業にする人が
生まれている。(2)各種スポーツをするための良好な環境、(3)総合型地域スポーツクラブの存在、

(4)「食」として豊富な農畜産物の存在があげられる。

③課題～⑧交付金申請額は記載のとおり

⑨平成30年度事業内容

次の取組を実施する予定。

(1)スポーツ合宿誘致のための基盤づくり

- ①官民協働によるスポーツ合宿誘致実行委員会の開催
- ②幕別町応援大使事業など町出身スポーツ選手、スポーツ活動に関する情報発信
- ③合宿誘致のための基盤整備として、野球場のバッティングゲージの整備

(2)ライフステージに応じて健康で運動・スポーツを楽しむスポーツコミュニティの創出

- ①トップアスリートとの交流の場の創出
- ②町民が運動・スポーツを楽しむきっかけづくりとして、スポーツと健康を楽しめるコミュニティイベントの開催、健康ポイントラリー。
- ③障がい者スポーツの促進
- ④子どもの運動・スポーツ機会の充実

(3)十勝の農畜産物の活用による「食」と「運動」の連携

(4)オリンピックの町創生ワークショップとして、これからの幕別町の中でスポーツをどのように活用していけるか、無作為抽出による町民と職員によるワークショップの開催とアンケートの実施。

(次のページ)：オリンピックの町創生事業の全体イメージ

将来の幕別町＝オリンピックの町として町内外に認識してもらうためには、1人1人がスポーツをする・みる・支えることに関わり＋αとしてスポーツで稼ぐ仕組みづくりが必要。

ここで言う「スポーツ」とは、野球やサッカーだけでなく、ヨガ、ウォーキングなど競技性を伴わない健康志向の運動を含める。このことから、スポーツ＝競技種目や活動のレベル・強度を問わず、身体を使った全ての運動に関わることと定義。

未来のオリンピック選手を育成する事業や応援大使事業、運動と健康のプログラム、ふるさと納税におけるアスリート基金などこれまでの取組に加えて、アスリート応援事業としてSNSを通じたスポーツポータルサイトの開設やいろいろなスポーツのパブリックビューイング、農畜産物を活用したアスリート食の商品化、健常者だけでなく障がい者の運動も促進したパラリンピック選手の育成や誰もが楽しめるスポーツコミュニティイベントの開催、引退したアスリートを地域おこし協力隊として活用し、町のスポーツ指導を行うスポーツリーダーの育成と雇用環境の確保、スポーツコミュニティ空間として市街地の空き店舗を改修し、ドイツのスポーツバーをイメージしているが、色々なスポーツ映像を流すほかアスリートグッズの展示、雇用了元アスリートがスポーツ指導のない日はそこで店員として中高生の部活動の悩みやスポーツに関する相談を聞いたり、幕別アスリート食を提供するカフェとして、地域住民がちょっと立ち寄りたくなるような拠り所となる空間を創出する。

また、大学やプロのスポーツ合宿や大会の総合的な合宿誘致活動を行うことは、幕別だけでなく中札内や帯広市などにも素晴らしい環境があるため、連携して「十勝スポーツ・コミッション」を創設し、十勝をスポーツの聖地としてイメージ付けしていくことができると考えている。

このような取組を通じて、今後もオリンピック選手が輩出できれば素晴らしいが、それは結果であって、オリンピック選手など著名なアスリートが仕事や遊びなど日常生活のなかで町民と自由に触れあえる町として、幕別町＝オリンピックの町としてブランディングしていきたい。

(委員からの質疑) なし

森委員 3事業すべてに関わりますが、特に食の分野に関して、幕別農協は機構改革により今年の2月から食品開発課が出来ましたので、このような取組に関しては全面的に協力します。ちなみに担当課長は私です。

宮本委員 先ほど、外国人の関係で介護士はいるのですか。

藤原会長 今、3年間の研修としてベトナム、マレーシアから多くの人々が、特に建設業や菓子製造業で町に来ている。先ほどの話しで本当は介護士も出来ればいいのですが資格などの面で難しいのでは。3年間で資格だけとって国に戻る方もいる。

先ほど、起業化の話もありましたが、大学や各企業やインターンシップ、今までは短い期間でしたが、半年ほどなど研修して会社に就職する人もいる。理由としては働く人がいなくなると言いながら、入社して辞めてしまう人もあり、専門学校やや大学がをインターンシップとして、学生期間のかなりの期間をインターンシップにあてている大学もあり、こういうのを幕別も活用していければと思う。

藤原会長 あと、何かご意見はありますか。なければ本日の会議はこれで終了いたします。

(了)